

五月一日をメーデーへ祝う

方

「メーデーは労働者の日である。」
女子の子に三月の誕生日があり、男児に五月の節句があるやうに、労働者にも一日を中心から離む事の出来る祭りがなくてはならぬ。日曜もある三・大祭日もある。併しあれば凡て有り難い級に取つてこそ「労働の日」であれ、その日への生活に追はれてゐる労働者に取つては只無食を以てたるに過ぎない。五月一日の労働者は實に世界の労働者が心から行祭する事の出来、ある唯だ一日の日である。此日を外して一年三百六十五日労働者が就ぶべき祭日は既にない。此日こそ英國の労働者が田舎を休んで『懲かすして而かもむきなり喰ふ者』の祖先にさへの歴史の力を示す日である。『我等生産者が手を突けば、世界は瞬間でなるぞ』といふ事を定期に資本家寄託する日である。此日地球の表面は我等労働者の擧げる喊聲に依つて「めれもの」だ。然り労働祭は労働者の階級意識の表現である。労働者が此日を祝ふ事は労働者の解放への進軍の熱誠でなくてはならない。

今日から後は、「一大労働者八時間以上働くな」

労働の八時間! 休息の八時間! 教育の八時間!

労働者は堅苦らかに斯く歌を唱へ明から町へと練り歩くのであった。こは資本家に取つて一大幸福感であった。果然血潮に血を注ぎ流した。そして盛大労働者隊と警察隊を演時には神の如き若の少女が犠牲の血を胸に流した。

労働者は堅苦らかに斯く歌を唱へ明から町へと練り歩くのであった。こは資本家に取つて世界の労働者は何時までも「八時間労働」を実現する事の爲めに斗争を演へばなれば一九〇〇年代に入つてからである。然る労働者隊は各國に於て着々實行せらるゝに數つたからである。茲に於て労働祭は他に第二次の標識を見出さねばならなくなつた。或所ではその時その時に随分となつてゐた労働争議が起つて來てその爲めに「一大幸福感運動」をなす事も始まる。例へば前年英國に於て折衝紛糾中で「八時間労働」のストライキを擧げしより、五月一日を以て全労働者が示威運動を行つたが如きである。併し時も「折衝」問題がある點のものではない。此處に於てが労働祭の「一大幸福感運動」といふ如き問題の問題ではある。モット根本的な労働階級の解放に目撃を認めて居たのである。そしてその「一日」は労働の休憩と作業の示威運動に依つて労働者の自覺、組織、團結の威力を表現し併せ、萬國の労働階級が擧げて此の日の祝祭の精神を同じにして「一大幸福感運動」が成る所以である。即ち萬國の労働者がこの「一大幸福感運動」の精神を發揮する二十四時間のストライキを行ふ事に依つて此一日は眞正の労働者階級も亦道の工夫も電燈會社の職工も米屋の小僧も郵便局員も夫から各家の家庭女中も月の賃料を受ける。だから電車自動車の交連機器止まりての商店は閉され夜に入つても電燈もつかねば瓦斯もつなげて用を命じやうさしも水道は止まつてゐる。かくして貧困極くなき資本家及富の政治家をして見事に生産者の威力を感じしめてやうういふのがメーデーの主旨となつたのである。

メーデーに参加する事は萬國労働者の特權なのだ。

來りて五月一日のメーデーに参加せよ!

メーデーの歌（其の一）

一

開け春の朝

労働者

さゝるき渡るメーデーの

示威者に起る足ざりと

未来を告ぐる闇の聲

一

櫻は散りて貴人らが

櫻葉の心のさめし時

青葉の風の送り来し

ブロレタリアの心の聲

二

人類文化の柱なる

この双腕をさし延べて

天下に示せ我々の

意氣と希望と友愛な

三

ながき採取に備みたる

裏店の資本主義

居る使命は我にあり